



喜多川歌麿 「夏夜のたのしみ」(部分)
個人蔵【通期展示】

美しい春画

— 北斎・歌麿、交歓の競艶 —

The Beauty of Shunga — Hokusai and Utamaro: Exchange and Competition

2024年9月7日(土)～11月24日(日)

前期 | 9月7日(土)～10月14日(月・祝)

後期 | 10月16日(水)～11月24日(日)

18歳未満は入場禁止

細見美術館



細見美術館、 8年ぶりの春画展―

【開催趣旨】

今秋、細見美術館では、「美しい春画―北斎・歌麿、交歓の競艶―」を開催することとなりました。

春画は、一般に、人間の性愛を描いた絵画の総称で、男女の姿がおおらかに、時にユーモアをもって描かれています。江戸時代には「笑い絵」とも呼ばれ、浮世絵の普及とともに、大名から庶民まで貴賤を問わず、男女対等に楽しまれました。また、春画は縁起物でもあり、嫁入り道具として母から娘や嫁に受け継がれています。

しかし、明治時代以降、西洋的倫理観の流入に伴い、春画はタブーとみなされ、秘すべきものとされるようになりました。

2013～14年、ロンドンの大英博物館で「春画 日本美術の性とたのしみ (Shunga sex and pleasure in Japanese art)」が開催され、春画の高い芸術性とユーモラスな発想が海外で高く評価されました。そして、2015～16年には、日本では初めてとなる本格的な「春画」展が永青文庫（東京・目白）と細見美術館（京都・岡崎）で開催され、大きな注目を集めました。これを契機に春画をめぐる環境は大きく変化し、多くの一般の方々の関心が高まり、浮世絵研究においても春画は特殊なジャンルではなく、絵師の作画活動の一つとして捉えられるようになりました。

この展覧会では、版画・版本の作品に加え、特に、1点ものである絵画作品、いわゆる「肉筆春画」に焦点をあて、書籍などに掲載され、存在は知られながらも、美術館での展示が叶わなかった作品をご紹介します機会となります。

日本の美術館では初公開となる葛飾北斎の幻の名品「肉筆浪千鳥」や、喜多川歌麿の大作、さらには海外から里帰りを果たした作品を含む、精選された美しい春画約70件を心ゆくまでご鑑賞ください。

【みどころ】

1. 北斎の肉筆春画の傑作「肉筆浪千鳥」、日本の美術館で初公開



初公開

葛飾北斎 「肉筆浪千鳥」より (部分)
個人蔵【通期展示】

2. 北斎ファン、必見！ 北斎春画の3作品を比較展示 —「肉筆浪千鳥」、『浪千鳥』、『富久寿楚宇』—

幻の名品「肉筆浪千鳥」、歌麿^{うたま}の『歌満くら』と並び、かつて春画の最高峰と目された『浪千鳥』、北斎自身の筆によると認知される『富久寿楚宇』を同時に比較しながら見られる、初の機会。

3. 秘かに愉しむもの、という春画のイメージを覆す 歌麿の作「肉筆春画」2点が日本の美術館で初公開！

4. 美しい春画 22点が里帰り

2013年の大英博物館「Shunga」展では9点、そして2015～16年の春画展で14点が出品されたミカエル・フォーニッツコレクション。今や「フォーニッツコレクションなしに肉筆春画については語りえない」とまで言わしめています。本展では初公開作品を含む、これまでで最大となる22点の優品が里帰りします。

雪鼎の春画は、火伏せのお守り！

さまざまな上方春画を紹介。中でも、18世紀後半の上方春画界を席捲した月岡雪鼎の作品は、江戸のそれと比較して濃厚な描写が特徴的です。当時、雪鼎の春画を所持すると火伏せのお守りになるという伝説が生まれるほど、人気を博しました。

初公開



月岡雪鼎 「月次春画花卉画帖」より (部分)
ミカエル・フォーニッツコレクション【頁替あり】



月岡雪鼎 「月次春画花卉画帖」より
ミカエル・フォーニッツコレクション【頁替あり】

歌麿の大作、日本の美術館で初公開！

さらに、近年発見された北斎の肉筆春画、関西初披露。

掛軸は、原則的に^{とこ}床に掛けて複数の眼で鑑賞する絵画。これらの春画掛軸がどのようなシチュエーションに置かれたのかを、想像しながらご鑑賞ください。

初公開

喜多川歌麿 「夏夜のたのしみ」(部分)
個人蔵【通期展示】
61.5×105.3 cm

若い恋人たちが夏の夜に戯れている様子を描く。

本作は、横幅が1メートルを超える大きな掛軸。



横幅1メートル超えの大作！



初公開

喜多川歌麿 「階下の秘戯」(部分)
似鳥美術館蔵【通期展示】
54.8×68.8cm

階段の途中で交接する男女と、階段下の陰で自慰をする女を描く。



関西初

葛飾北斎 「閨中交歓図」(部分)
個人蔵【前期展示】

近年発見された、葛飾北斎の2点の肉筆春画のうちの1点。淡彩で描かれた品格ある交合図。「北斎」から「戴斗」号への過渡期頃の制作と推定される。

後期もみどころいっぱい

北斎春画作品の中で最も有名な「蛸と海女」の図で知られる『喜能会之故真通』も登場。

葛飾北斎 『喜能会之故真通』より(部分)
「蛸と海女」【10月16日～10月31日】
個人蔵【頁替あり】
文化11年(1814年)



関西初

葛飾北斎 「春愁図」(部分)
ミカエル・フォーニッツコレクション【後期展示】

近年発見された、葛飾北斎の2点の肉筆春画のうちの1点。北斎の春画『浪千鳥』の大胆なデフォルメに通じてゆく迫力がある。



確かめよ。ホンモノが持つ凄さを！

注文による1点モノの肉筆春画では、金や銀をはじめ、良質な絵具を用いて男女の肌や身体、着物などが繊細に描かれています。さらに艶墨が使われた髪、陰毛の緻密な毛描きなどの技を凝らした表現にもご注目ください。

また、版元や絵師の名を隠した地下出版物であった春本では、豪華絢爛な色彩に加え、雲母摺り、空摺といった江戸版画の超絶技巧を堪能できます。

贅を尽くした美しい春画の世界をお愉しみください。



勝川春章 「初宮参図巻」(部分)
似鳥美術館蔵【巻替あり】



えんしごじゅうよじょう
歌川国貞 『艶紫娯拾余帖』より
国際日本文化研究センター蔵【頁替あり】

紅葉の頃寺社の境内での見合いに始まり、結納、婚礼とつつがなく進行してゆく。そして、妻が夢の中で七福神と戯れたことで懐妊、出産、翌年の桜の頃に初宮参りの慶事で締めくくる。

講演会

有料・事前申込制 ※詳細はWEBサイトをご覧ください。

会場＝京都市勧業館みやこめっせ 大会議室

「春画鑑賞空間の古今」 9月8日(日)

講師：樋口一貴氏(十文字学園女子大学 教授)

「春画の見方、味わい方」 10月27日(日)

講師：山本ゆかり氏(多摩美術大学 講師、川崎・砂子の里資料館 学芸員)

【開催概要】

巡回予定はありません

展覧会名 美しい春画－北斎・歌麿、交歓の競艶－

会期 2024年9月7日(土)～11月24日(日)

[前期] 9月7日(土)～10月14日(月・祝)

[後期] 10月16日(水)～11月24日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

入館料 当日券 2,200円 前売り券 2,000円

●お得な前売りペアチケット2枚1組 3,800円

【販売窓口】チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス、CNプレイガイド、楽天チケット、セブンチケット

※前売り券は8月7日から9月6日までプレイガイドにて販売

※団体・学生・障がい者などの割引はありません

18歳未満は入場禁止 ※会場にて年齢の分かるものをご提示いただく場合があります

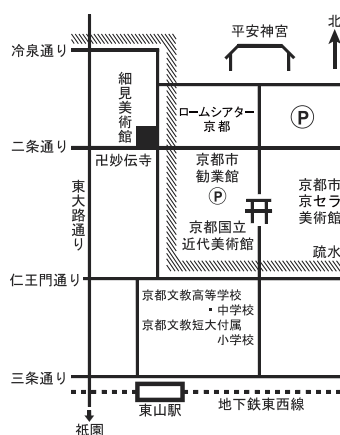
主催 細見美術館、朝日新聞社、京都新聞

特別協力 角匠

協力 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

*会期・営業日時等を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトをご覧ください。



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
 - 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
 - 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
- ご来館には公共交通機関をご利用ください。

【細見美術館 WEB サイト】

<http://www.emuseum.or.jp>



【細見美術館公式 SNS】

X(旧 Twitter) @HosomiMuseum

<https://x.com/HosomiMuseum>

Instagram @hosomi.museum

<https://instagram.com/hosomi.museum>

報道に関するお問い合わせ

「美しい春画」PR事務局(株式会社 TM オフィス内)

担当: 馬場・永井・西坂

E-mail: shunga@tm-office.co.jp

TEL: 050-1807-2919 FAX: 06-6231-4440



細見美術館について

細見美術館は、公益財団法人細見美術財団が運営する美術館です。

実業家・日本美術コレクター、細見古香庵(1901-79)に始まる細見家三代の蒐集品を基礎として、1998年に開館しました。コレクションは、神道・仏教美術から茶の湯の美術、琳派・伊藤若冲といった江戸絵画など、日本美術のほとんどすべての分野・時代を網羅するものです。美術館では、これらを中心に多彩な企画展を開催、古典に息づく美の魂を未来に活かしたいという志のもと、伝統文化の継承保存と普及振興に努めています。また、美術を愛する多くの人々が集う場所として親しんでいただけるよう、館内には茶室・ショップ・カフェも併設しています。

※展示内容は展覧会企画により異なります

- 開館時間 午前10時～午後5時 ■休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、展示替期間、年末年始
- 入館料 展覧会によって異なる ■住所 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
- 連絡先 TEL 075-752-5555 / FAX 075-752-5955 info@emuseum.or.jp

これからの展覧会

琳派展24

抱一に捧ぐ ―花ひらく〈雨華庵〉の絵師たち―

会期：2024年12月7日(土)～2025年2月2日(日)



山本素堂「朱楓図屏風」 紙本銀地着色 江戸後期